



看護学部に求められること ～大学認証評価を受けて～

学部長・教授 春山早苗

学校教育法により、国公私全ての大学は、7年以内ごとに、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価を受ける制度があり、これを認証評価といいます。認証評価の目的は、①大学の質を保証する、②評価結果が公表されることにより、大学が社会による評価を受ける、③評価結果を踏まえて大学が自ら改善を図る、ことであり、教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況について評価を受けます。本学では、平成24（2012）年度に教育研究、組織運営及び施設設備等について4回目となる「自己点検・評価」を実施し、平成25（2013）年度に2回目となる認証評価を受審しました。

その結果、大学基準に適合していると認定されました。具体的には、学年ごとにきめ細かく効率的なカリキュラムや、高校から大学の専門基礎教育へ円滑に移行できるための初年次教育、メディカルシミュレーションセンターの学生教育支援、東日本大震災における支援活動等が評価されました。加えて、看護学部については、少人数教育によるセミナー科目・演習・実習や、教員の教育能力向上のための授業研究会の開催、学生を対象としたカリキュラムについてのアンケート調査や看護実践能力の卒業時到達度評価等による教育内容の強化及び教授方法の改善、相談ルームや学年担当アドバイザーによる学生支援、実践現場の看護職と教員との共同研究を推進する体制、看護学部の教員と附属病院の看護職がメンバーである「看護職キャリア支援センター」における卒業後教育やキャリア支援活動等が特に評価され、そして、高度医療と地域の最前線で活躍できる看護職を社会に輩出しており、看護の立場から地域医療に貢献している、と評価されました。

一方で、努力課題もあり、卒業時に修得しておくべき学習成果、つまり卒業時にどのような知識やスキル、素養を身につけた人物を目指しているのかを示す「学位授与の方針」と、それを実現するために、どのような考え方で教育課程を編成しているのかを示す「教育課程の編成・実施方針」をより明確にするようにという指摘がありました。これを受けて、これまでも教育目標や教育方針を定めていましたが、新たにディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）と、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）を昨年度末に定め、パンフレットやホームページ等で公表しています。

また、本学では、自己点検・評価および前述した認証評価の結果を踏まえた改善目標・改善計画を「第3期中長期目標・中期計画（平成25年度～平成29年度）」として策定しています。看護学部における平成26（2014）年度の重点計画には、【シミュレーション教育との連動による実習教育のさらなる充実】、【卒業時到達度評価を踏まえたカリキュラムの改善】、【異文化理解、情報リテラシー、倫理的側面に関する教育充実等による保健・看護の分野での国際的視野を持った人材の育成】、【キャリア支援の充実】等があります。

皆様には、P（Plan：計画）-D（Do：実施）-C（Check：評価）-A（Act：改善）サイクルを回しながら前進する看護学部をお見守りいただき、今後ともご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



新しい時代の看護職への期待

学長 永井良三

少子高齢化が年々進行し、随分世の中も変わってきました。昔の唱歌「船頭さん」には、「村の渡しの船頭さんは、今年六十のおじいさん」とありました。これは昭和16年に発表されたそうです。当時の平均寿命は50歳くらいでしたから、この歌詞に違和感はなかったと思います。しかし、現在、男性は80歳、女性は86歳の平均寿命を誇り、社会も様変わりしました。

高齢化で最も影響を受けるのが、社会保障制度です。とくに国民皆保険制度は、持続性が危ぶまれています。それは、医療費の多くを若年世代が負担しているからです。しかし、各国の医療提供体制はさまざまです。アメリカは典型的な市場原理による医療制度です。しかし弊害として、社会的な弱者の受けられる医療が差別されることはよく知られています。その他にも専門医や専門看護師の数も市場のニーズが大きな影響を与えます。

一方、ヨーロッパの医療制度は、国の指導力で誘導されます。ほとんどの病院が公立ですから、これが可能です。しかし、手術の待機が長期に及ぶなど、必要なときに必要な医療が必ずしも受けられないという問題があります。これに対して、日本は市場原理を明確に否定しています。医療に市場原理は弊害が大きいからです。かといってヨーロッパのような政府主導ですべて動くわけではありません。病院の80%以上が私立だからです。「医療費の支払いは公的、医療の提供は私的」というのが、日本の特徴です。

医療機関のすべてを公的にしないのも賢明な選択です。最近は大きく改善されましたが、公立病院では人員と人件費が、長い間制限され、多くの問題を抱えていました。日本の医療体制は、経済が順調に成長しているときはよいのですが、低経済成長時代になると、制御が難しくなります。どのように医療資源を配分するか、誰が決めるかという問題について、関係者の利害が対立し、調整は困難です。これからは、さまざまな医療職種がお互いの立場を尊重し、データをもとに議論を重ねる必要があります。協議をリードするには、総合的な力が求められます。

今国会において「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」が制定されました。この法律は、医療と介護の一体化、医療事故の調査制度、看護師による特定医行為などに関わる法律改正を目的としたもので、これからの医療・介護制度に大きな影響をもたらすものです。看護の世界に生きる皆さんには、新しい時代に対応したキャリアを積んでいただきたいと思います。そのためには、日々の勉強や仕事に精進しつつ、世の中の動きにも注意をはらっていただくことが大切です。自治医科大学看護学部と大学院が、そのような人材を多数育成されることを願っております。



カリキュラム・ポリシー／ディプロマ・ポリシーの 策定とポートフォリオでの評価

教務委員長 成 田 伸

自治医科大学看護学部では、昨年度一年かけて検討し、カリキュラム・ポリシー／ディプロマ・ポリシーを策定し、今春ホームページ等で公開しました。また同時に、学生が自らの到達度を自己評価し、次の課題を見いだす学習のシステムを作り上げるために検討を重ね、看護学部ポートフォリオを今春から開始しました。

看護学部では、平成24年度にアドミッション・ポリシーを公開しましたので、これで、アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）の3つが出そろいました。これまでも策定された教育理念・教育目標に沿ってカリキュラムを展開してきましたが、この3つのポリシーが一貫したものとして策定されたことで、今後は、日々の教育内容・方法の精選とその評価・改善にさらに務めていきたいと思っています。

さて、今年度から導入したポートフォリオは、オレンジ色のファイルに、それぞれ看護学実習での受持対象者の特性、実施した看護技術やケア、各学年終了時点での自己評価等を記録し、ファイリングするものです。全学生に学生の名前入りのファイルを配付しています。ポートフォリオは、もともとは「紙ばさみ」や建築家などの作品集を意味しますが、バラバラの情報を一元化し、学習や仕事のプロセス全体を時系列で俯瞰して見えるようにするものです。教育の世界では、ポートフォリオ内に一元化した情報を、その時々整理し、自己評価することを繰り返し、より積極的により確実に学んでいくための方法として活用されています。

看護学部では、ディプロマ・ポリシーに提示した内容を学生が身につけられるように、カリキュラムを通して、学習経験を積み重ねていけるように授業科目を配置しています。特に看護学部で養成する看護実践能力については、「看護実践能力に関連した学習の進捗と到達目標」として学年ごとに設定し、それぞれの科目がどのような位置づけにあるかをシラバスに具体的に示しています。しかし、看護学実習において経験できることは、各学生によって大きく異なっています。そこで、ポートフォリオを用いて、学生自らに、自分の学習内容を記録してもらうことにしました。用いる記録は、看護学実習経験録、看護技術経験録、各看護実習の評価票、成績票、看護実践能力に関連した到達目標に沿った各学年終了時点での自己評価等です。ポートフォリオに記録し振り返った結果を自己評価として文章化し、次に学習に向けて学習課題を記載します。これにより学生は、自己の看護実践上の課題を意識化することができます。また、このポートフォリオを提示して相談することで、教員から学習について適切なサポートを受けることができます。

ポートフォリオは先に紹介したように当初の意は「紙ばさみ」です。しかし、ファイルに実習評価票等の記録を単に挟んでいくだけでは意味を持ちません。ポートフォリオが真に活用されるためには、学生が自主的に記録し振り返ることと、教員がその成果と一緒に確認して、学習をサポートしていくことが重要です。策定したディプロマ・ポリシー達成をめざし、学生とともに努力していきたいと思っています。

平成26年度 年間スケジュール

前 学 期						後 学 期					
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
前学期授業開始(2日)	入学式(4日) 春季休業(4月26日～5月6日)	新入生交流バーベキュー大会(8日) 創立記念日(14日) オープンキャンパス(24日)	オープンキャンパス(29日) 1・2年次定期試験(22日～25日) 4年次定期試験(7月17日～18日)	オープンキャンパス(22日) 夏季休業(8月6日～9月28日)	再試験(27日～29日) オープンキャンパス(22日)	後学期授業開始(29日)	薬師祭(学園祭10日～12日)		冬季休業(12月20日～1月4日)	再試験(26日～27日) 1・2年次定期試験(9日～13日)	卒業式(6日) 学年末休業(3月21日～)
1年	「対象の理解実習」 6/9～13										
2年						「日常生活援助実習」「成人期継続療養看護実習」 9/22～10/3、10/14～24					
3年	前学期実習(5科目) 5/12～7/25							「後学期実習」(3科目) 11/17～2/13			
4年											
全体	春季休業 4/26～5/6					夏季休業 8/6～9/28				冬季休業 12/20～1/4	
										学年末休業 3/21～	

看護学部 学科目別教員一覧 (平成26年5月1日現在)

学科目	職位	氏名	備考	学科目	職位	氏名	備考
看護基礎科学	教授	渡邊 亮一	国家試験対策委員長	精神看護学	教授	永井 優子	
	教授	大塚 公一郎	学生委員長		教授	半澤 節子	
	准教授	北田 志郎	学年担当アドバイザー統括		講師	千葉 理恵	
	講師	飯塚 秀樹	3学年担当アドバイザー		助教	石井 慎一郎	2学年担当アドバイザー
	講師	平尾 温司	2学年担当アドバイザー	助教	小池 純子		
基礎看護学	教授	本田 芳香		母性看護学	教授	成田 伸	教務委員長
	准教授	里光 やよい	1学年担当アドバイザー		教授	野々山未希子	保健委員
	助教	飯塚 由美子			准教授	角川 志穂	
	助教	岩永 麻衣子	1学年担当アドバイザー		助教	荒川 さゆり	
	助教	中塚 麻美			助教	篠原 有美子	
	助教	湯山 美杉			助教	柴山 真里	4学年担当アドバイザー
地域看護学	教授	春山 早苗	看護学部長	成人看護学	教授	中村 美鈴	広報委員長
	准教授	鈴木 久美子			准教授	小原 泉	
	准教授	塚本 友栄			准教授	村上 礼子	2学年担当アドバイザー
	講師	島田 裕子	4学年担当アドバイザー		講師	長谷川直人	
	助教	青木 さぎ里			助教	安藤 恵	
	助教	江角 伸吾	3学年担当アドバイザー		助教	椛山 定美	
小児看護学	教授	横山 由美		老年看護学	教授	宮林 幸江	
	講師	田村 敦子			准教授	浜端 賢次	4学年担当アドバイザー
	講師	小林 京子			講師	川上 勝	
	助教	小西 克恵			講師	清水 みどり	

科目紹介

看護学部のカリキュラムは「基礎科学分野」、「看護学分野」、「総合分野」の3分野から構成されています。今回は、「総合分野」に位置づけられている授業科目の「へき地の生活と看護」をご紹介します。



「へき地の生活と看護」

地域看護学 准教授 鈴木 久美子

本科目は総合科目に位置づけられており、1～4年の全学年の学生が履修できる選択科目です。科目名にある通り、山間地域や離島などのいわゆる「へき地」の地域住民の生活状況と看護活動の実際について学ぶことを目的として、夏季休業中に、学生がへき地の保健医療福祉施設で3日間の見学実習を行う、現地研修プログラムです。北は北海道から、南は鹿児島県奄美地方や沖縄県まで、毎年10か所前後の施設の協力を得て、研修を行っています。毎年30名前後の学生が本科目を受講しています。単位認定後も研修として参加することが可能なため、中には2回・3回と継続して参加する学生もあり、科目責任者としては嬉しい限りです。

学生は研修を通して、大学病院のような高度医療機関とは異なる、地域医療機関の役割や、そこで機能する看護の役割について学びます。また、短期間ですが学生自身がその地域に身をおく中で、地理的な特性が住民の生活や健康にもたらす影響や、食生活や食習慣といった文化を体感します。山間地や離島など、地域の特性と住民の生活との関連を実感しやすい地域だからこそ、そこには地域の特性に応じた住民の生活の姿があり、それに合わせた看護の必要性や重要性を学ぶことが可能となります。更に、学生自身が研修施設の関係者や住民の温かさに触れ、受け入れられる経験を通して、看護の対象である人間に関心を寄せることの大切さやコミュニケーションの大切さを学んでいます。

本科目は本学の建学理念や、本学部の教育理念である「高度医療にも地域医療にも従事できる看護職の育成」に沿った、特徴的な科目であるといえます。今後も、学生の学びの充実に努めていきたいと考えています。



「へき地の生活と看護を学んで」

4年 小泉 里沙

(宇都宮短期大学附属高等学校出身)

私は、2年次と3年次に「へき地の生活と看護」を履修し、2年次には北海道の夕張市にある夕張希望の杜 夕張医療センター、3年次には沖縄県の津堅島という離島にある沖縄県立中部病院附属津堅診療所で実習させていただきました。へき地の生活と看護については高校時代から興味があり履修しました。前学期に講義を行い、実習は夏季休業中に行きました。実習を通して、私はへき地や島で働く看護について様々なこと学ぶことができました。へき地では高齢化率が高く、持病を持っている住民も多いため、薬を毎日飲まなければならない人など長期間継続して看護を提供していました。また、事故などの急性期ではすばやく患者の状況を把握し看護を提供していくこと、さらに事故や病気にならないために予防していくことが大切であると学びました。限られた時間ではありましたが診療所で働く方たち、デイケアのスタッフや利用者さん、へき地で生活する人々と多く話す機会があり、人の温かさに触れ、一人一人に密着した看護の提供を学び、講義だけでは学ぶことのできない貴重な経験をすることができました。この実習で学んだことを活かし、一生懸命看護の勉強に励みたいと思います。



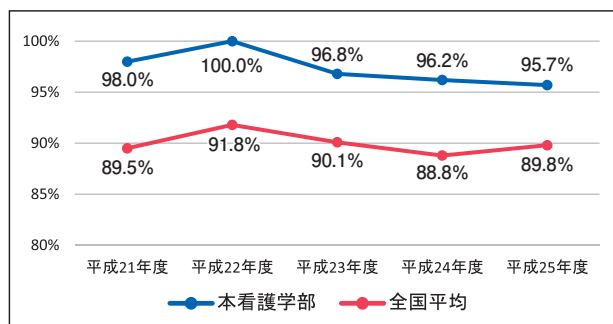
保健師助産師看護師国家試験の最近の動向

国家試験対策委員会 委員長 渡邊 亮一

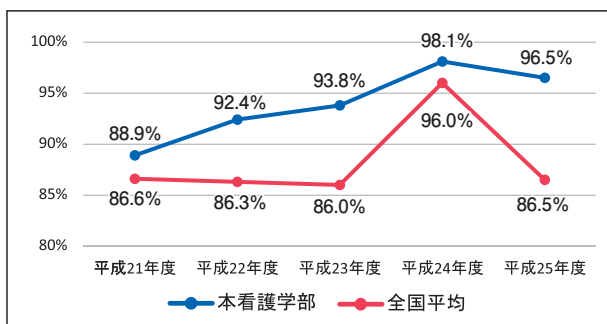
今春実施された保健師助産師看護師国家試験の本学部の合格率（卒業生を含む）は、保健師96.5%、助産師87.5%、看護師95.7%でした。すべての在学生在が受験する保健師国家試験や看護師国家試験の合格率は全国平均を上回っているとはいえ、全員合格とはなりません。受験した在學生や卒業生はもとより、国家試験対策委員をはじめとする教員も手を尽くしたのですが、やや残念な結果でした。

さて、今回は、保健師助産師看護師国家試験の合格基準について紹介します。「合格基準」とは、簡単にいえば、何点とれば合格するかを示したものです。古く、保健師助産師看護師国家試験の合格基準はどれも6割（60%）でした。現在でも、保健師と助産師の国家試験の合格基準は6割です。しかし、看護師の国家試験の合格基準は6割ではありません。看護師国家試験の合格基準は試験前には決められておらず、試験が終わった後、試験の結果（成績）を見て決められます。

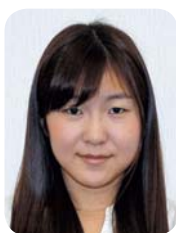
過去10年間の看護師国家試験の合格基準をみると、もっと低かったのは第99回（2009年）の60.4%でした。逆に、もっとも高かったのは第96回（2006年）の72.1%でした。これから容易にわかることは、看護師の国家試験は6割とれていれば合格するという昔の常識は通用しないということです。試験問題がとてもしければ7割とっても合格しないことがあるのです。そのため、国家試験対策委員会では、看護師国家試験については8割以上の成績をとるように指導しています。



看護師国家試験 合格率の年次推移



保健師国家試験 合格率の年次推移



国家試験に向けた学習への取り組み

平成25年度卒業（第9期生）

関谷 典子（栃木県立大田原女子高等学校出身）

私は、助産を専攻していました。4年生の前期は、助産の授業や演習、総合セミナーで多忙であったため、早い段階で学習計画を立案し、解剖生理や病態生理などの基本を中心とした学習を行っていました。夏休み以降は、2ヶ月程度の助産実習でさらに、時間の確保が困難であったため、実習の合間に看護師や保健師の学習をしたり、助産実習で学んだことを問題集を使用して復習したりと、少ない時間を有効に活用しました。助産実習の終了後は、国家試験対策ゼミに参加し、各教科の先生方による焦点を絞った講義とわかりやすい講義資料を使用して学習に励みました。国家試験対策ゼミでは、出題基準の変更部位や出題されやすい知識の確認などを行うことができました。また、知識の確認や定着だけでなく、各教科の先生方から激励のお言葉をいただき、身が引き締まり、ゼミの受講後はさらに強い気持ちで学習をすることができました。

国家試験を終えて感じることは、日々の授業や実習時の学びの重要性です。低学年時は、日々の学習をしっかり行い、4年生では、早い段階から計画的に焦らず学習していくことが大切だと思います。



ブータン王国RIHSとの交流

看護基礎科学 講師 飯塚 秀樹

本学看護学部教員3名と学生8名は、2013年8月24日から9月1日までの9日間、ヒマラヤの秘境、ブータン王国での研修を体験しました。ご存じのとおり、ブータンは国の豊かさを測る指標として、国民総幸福量（Gross National Happiness, GNH）という概念を用いており、精神面での豊かさを重視しています。国民総生産や国内総生産など経済的・物質的側面からの数値を追い求める先進諸国とは大きく異なっています。また、ブータンは第二言語として英語を使用するESL (English as a Second Language) の国であり、日本のようなEFL (English as a Foreign Language) の国と、実際の国内英語事情はどう異なっているのか、英語を専門とする教師としての自分にはそのような側面からも大変興味のある国でした。

滞在期間中、私達はティンプー市にあるRIHS (Royal Institute of Health Sciences) という看護系大学の教員、学生達と学術・文化交流を行い、その間、国、県、地域レベルの様々な医療機関を視察しましたが、医療費はすべて無料、外国人が病気になった場合も無料だとのこと。重度の病気でブータン国内での治療が困難な場合、その患者をインドまで空路で運び、その際の交通費も無料とのこと。さすがGNHの国であると感心しました。

海外に行くと、日本国内では当たり前のことが、決して当たり前ではないことに気づきます。例えば道路などのインフラ。日本では救急車などを容易に走らせることができますが、山岳国であるブータンではそうはいきません。医療の発展とインフラの開発は表裏一体なのだと感じました。

ブータンでは1960年代から学校教育はすべて英語で行っており、言語的には日本以上に国際化が進んでいます。しかし、代表的な現地語であるゾンカ語は、英語支配により、その存在が徐々に薄れているといいます。母語を保護することの重要性も今回の研修から学んだ気がします。



RIHSの学生達と



「ブータン王国 RIHS 国際交流プログラム」学びと感想について

3年 鶴見 花織 (栃木県立栃木女子高等学校出身)

私は2013年8月24日から9月1日にかけて、RIHS 国際交流プログラムに参加しました。プログラムの中で印象に残ったことは、RIHSの学生さんと一緒に病院実習をしたことです。学生さんが、患者さんのカルテを見ながらその患者さんの病気のことや薬について説明をしてくれたり、積極的に患者さん家族に話しかけたりしている様子は、実習生ではなく本当の看護師のように見えました。学生さんの意欲的な学習態度に大変驚き、私も見習いたいと思いました。

またブータンは“世界一幸せな国”として有名です。人々は歩いているだけで、微笑み、手を振ってくれました。例えばクラフトマーケットでは店員さんが、「家族の健康を祈って」と織物などたくさんのお土産を笑顔でくださいました。偶然に初めてあった外国人にどうしてここまで親切にしてくれるのだろうか本当に感動しました。今までの自分の人に対する接し方、考え方は正しかったらどうかと考えさせられ、もっと人に対して優しく、誠意をもって関わりたいと思いました。私はブータンで、人として大切なこと学べたと思っています。

このような国際交流の貴重な機会を設けていただいたことを、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。



ブータンにて

相談支援

カウンセラー臨床心理士 小堀 あゆみ



私の目に映る看護学部の学生は、よく努力をし、成績優秀、協調性もある優等生といった印象の方が多いように思えます。そのような方の中には、実は心の奥深くに、対人関係の問題や自信のなさを抱えている方もいます。そういった面は普段はあまり目立たず、自分自身でも意識していない場合が多いのですが、直面化せざるを得ないのが実習の場です。

実習で現実の患者に出会ったときに、看護技術の習得が不十分な自分が、生身の人間として何ができているのかに直面する形で悩みだす……。また、実習先で諸先輩との連携を求められて、初めて自分の対人関係の未熟さの問題に直面して悩みだす……。職業人として自立するために乗り越えるべき課題が、実習という場で立ち現れ、学生はそこで「何もできない自分」に向き合うことになります。

現代の学生は、悩みを言語化せず、身体化させてしまうことが多いようです（体調不良など）。自分の心理状態を把握できるよう援助していくとともに、悩みの意味にも自ら気付いていけるような関わりが求められるように感じています。

経済的支援

前学生委員会副委員長・奨学金担当 野々山 未希子



本学部学生が利用できる主な奨学金制度には、日本学生支援機構奨学金と自治医科大学看護学部奨学金があります。学部奨学金は、昨年度、希望学生全員に月額5万円（1万円単位）までを貸与し、審査により月額5万円（1万円単位）までが加算され、約57%の学生が利用していました。

日本学生支援機構奨学金は、例年10名程度の新規枠があります。私学の場合昨年度は、第一種（無利子）は自宅外通学者月額3万円か6万4千円、自宅通学者月額3万円か5万4千円、第二種（利子付）は月額3、5、8、10、12万円、入学時特別増額貸与奨学金は10万円から50万円（10万円毎）が選択でき、約32%の学生が利用していました。

後者は成績や経済状況などの適格審査があり、近年、奨学金未返済者や適格基準非該当による支給停止者の増加が社会問題となっています。本学でも支給停止者が出たこともあります。学生委員会では、適格審査基準以下の学生に対し、学習方法や返済計画を含めた生活設計の助言を行うなど、適切に奨学金を利用できるように支援しています。

キャリア支援

前学生委員会キャリア支援担当 横山 由美



本学では、「キャリア支援」として学生が将来の自分のキャリアについてイメージを持てるような支援や卒業後直ぐの職業選択や就職に関する支援をしています。キャリア支援は1年生の12月から始まり、2年生12月、3年生6月、2月、4年生4月と継続的に説明会などを行っています。将来どのような仕事をしていきたいのかについてはなかなかイメージできない学生も多く、職業選択を悩む学生もいます。そのため、一昨年度から3年生の2月に「将来のキャリアを考える会」を設けています。この会は本学卒業後に看護師、保健師、助産師、養護教諭、進学など様々な職業に就いた先輩方に来ていただき、職業選択から現在の職業に至った経緯や現在の仕事について説明して頂いたり学生からの質問に受けて頂いたりする会です。この会が職業選択に影響を与えたと回答した在校生は69%で、中でも保健師、助産師の職業選択に大きく影響を与えていました。また感想として、「看護師以外にも選択肢が増えたおおよび視野が広がった」、「具体的に聞けたことでイメージが持てた」などが挙げられていました。

平成25年度自治医科大学卒業式

平成26年3月7日(金)、地域医療情報研修センター大講堂において、多数の来賓、保護者の出席の下、平成25年度自治医科大学卒業式が厳かに挙行されました。(医学部第37期生107名、看護学部第9期生111名)

学長賞を受賞した3人の中から蜂谷英里子さん、私立看護系大学協会会長賞を受賞した佐藤久恵さん、卒業記念品委員代表の大友麻美さんから卒業を迎えてのそれぞれの思いを言葉にしてもらいました。

学生生活を振り返って

学長賞受賞者 平成25年度卒業(第9期生) 蜂谷 英里子
(埼玉県立春日部女子高等学校出身)



この度、学長賞という素晴らしい賞をいただき大変光栄に思っております。私が学長賞をいただくことができたのは、諸先生方の熱心なご指導と良き仲間に出会えたおかげだと思っております。この場を借りてお礼申し上げます。看護という専門的な学問への大きな期待と不安を抱えて自治医科大学に入学して参りましたが、学びを進めていくにつれ、看護とは何か理解できるようになり、もっと深く学びたいと感じるようになりました。2~3年次の病棟実習では、自分の知識の無さを痛感し、目の前の課題に追われ、苦勞することもありました。先生方のご指導や仲間の協力のおかげで看護の面白さも感じるようになりました。そして、患者さんの“ありがとう”という言葉に励まされ、とても嬉しかったことが思い出として残っております。また、勉強だけではなく、一人暮らしやアルバイトなど様々な経験をすることができましたが、夜遅くまで語り合い、苦樂を共にした仲間が学生生活一番の宝物です。

卒業後は、この4年間で学んだことを生かし、さらに学びを深め、患者さんの立場にたって一緒に考えていけるような看護師になれるよう日々努力していきたいと思っております。

たくさんの出会いと学び

私立看護系大学協会会長賞受賞者 平成25年度卒業(第9期生) 佐藤 久恵
(岩手県立盛岡第二高等学校出身)



自治医科大学での4年間があっという間に過ぎ、時の流れの早さを感じています。大学での4年を振り返ってみると、たくさんの出会いや学びがあり、私はこの4年間で大きく成長することができたと思っております。入学当初はただ漠然と看護職に憧れを抱いていただけでしたが、講義や臨床実習を通して、看護とは何かを考え、対象となる方一人ひとりの個性を考えていくことが大切だと学びました。特に、4年次には助産学を履修し、同じ助産師を目指す仲間と共に、互いに励ましあいながら実習を乗り越えてきたことが今となっては良い思い出です。実習ではなかなか思うような看護ができず、悔しい思いを感じることもたくさんありましたが、先生方のサポートや友人からの励まし、そして、受け持たせていただいた対象者の方の言葉に逆に日々支えられ、感謝の気持ちでいっぱいです。まだまだ未熟ではありますが、これから働いていく中で学生の時には出会うことが出来なかったたくさんの出会いがあると思っております。今後は自治医科大学で学んだことを生かし、そしてたくさんの出会いを通してさらに私の看護というものを深めていきたいと思っております。

また、私立看護系大学協会会長賞という素晴らしい賞をいただくことができ、とても嬉しく感じています。この賞に恥じないよう、今後も日々努力していきたいと思っております。

卒業記念品への思い

卒業記念品委員 平成25年度卒業(第9期生) 大友 麻美
(福島県立磐城桜が丘高等学校出身)



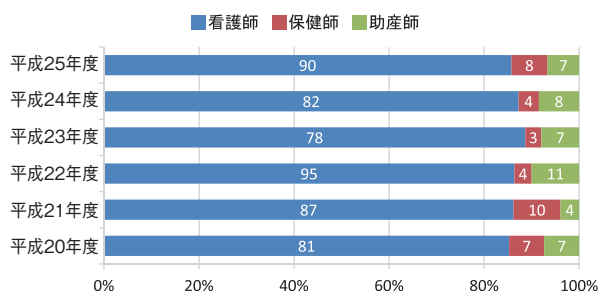
平成25年度は、看護学部第9期卒業生一同より、置時計を贈呈させて頂きました。日々忙しく大学生活を送る在学生の皆さんや、学生を支えて下さる教職員の方々が毎日の生活の中でふと目にするのが時計だと思います。

今回は、2つの置時計を贈呈させて頂くため、1つはサロンの奥に、もうひとつは学習室にと考えています。以前より、サロンの奥には時計が無く時間がすぐに確認できたら便利だろうと思いその場所を選びました。学習室に関しては、現在時計が設置してありますが、昔からの物であると聞き、新しく置時計を設置する方が良いのではないかと選びました。

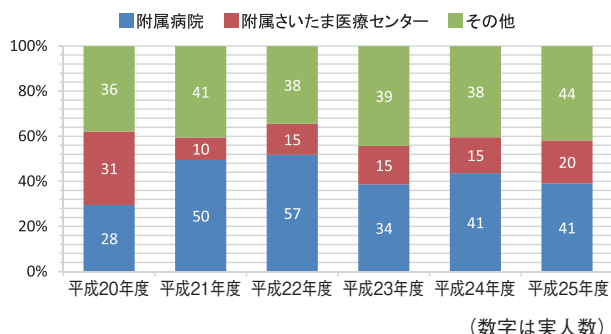
限られた学生生活をこの置時計と共に過ごして頂き、皆様が充実した日々を過ごされますことを願っています。

卒業後の進路一覧

〈職種別〉



〈主な施設別〉



〈平成25年度卒業生の就職施設〉

* 大学病院

北海道大学病院、東北大学病院、筑波大学附属病院、群馬大学医学部附属病院、東京医科歯科大学医学部附属病院、東京大学医学部附属病院、東邦大学医療センター大森病院、北里大学メディカルセンター、京都大学医学部附属病院

* 総合病院

福島労災病院、済生会宇都宮病院、下都賀総合病院、足利赤十字病院、那須赤十字病院、国立病院機構水戸医療センター、太田記念病院、さいたま赤十字病院、国立国際医療研究センター病院、虎の門病院、三井記念病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、千葉西総合病院、横須賀共済病院、高松赤十字病院

* 自治体病院

富山県立中央病院、神戸市立医療センター、神戸市立医療センター

* 専門病院

がん研有明病院、国立成育医療研究センター

* 行政機関・企業（保健師等）

栃木県、足利市役所、鹿沼市役所、小山市役所、富士見市役所、東京都特別区、大鹿村役場、日立健康管理センター

卒業生の近況

病院の看護師（自治医科大学附属病院勤務）

平成17年度卒業（第1期生） 川中子 智絵
（西武学園文理高等学校出身）



人のために貢献できる人になりたい。そう思ったのが看護師を目指したきっかけです。そして地元住民が頼りにされている自治医科大学附属さいたま医療センターがあったため、自治医科大学に入学しました。卒業後、さいたま医療センターの救急病棟に就職しました。救急現場では、医師、放射線技師、救急救命士など様々な職種と協働し、目の前の患者さんの命を救うため看護実践していました。また、病院内の活動だけでなく、さいたま市消防や県の災害援助等の訓練、プロスポーツ試合での救護など、看護師として活躍できる場、きっかけを得ることができました。自治医科大学への入学、附属さいたま医療センターへの入職は私にとってとても恵まれた環境でした。入職5年目頃、看護師としての力を磨くために母校自治医科大学の教員として働くことになりました。大学では、これまで臨床で実践していた視点とは違う、「新しく看護を切り開いていく仕事」看護に関する実践を改善・改革することに携わることができました。

現在は、附属病院の救命救急センターで看護師として勤務しています。第一線で活躍しているスタッフから、沢山の技術、知識を学べる環境にいます。今後はこれまでの経験、知識を基に私らしい看護の実践ができたらと思っています。

県の保健師（茨城県筑西保健所勤務）

平成18年度卒業（第2期生） 長洲 奈月
（茨城県立水戸第一高等学校出身）



自治医科大学を卒業後、看護師として5年間病院に勤務した後、行政の保健師として3年目になります。保健師は地域住民の健康維持・増進のために活動する仕事です。県の保健師は、精神保健、難病患者の支援、結核・感染症、エイズ対策、健康危機管理対策等を行っています。専門的・広域的な視点も必要であり、市町村や関係機関との連携も重要な役割です。

私は感染症業務を担当し、感染症発生時の疫学調査や感染拡大・防止の指導、平常時の感染症まん延防止対策、HIV検査、予防啓発活動等を行っています。施設や学校など集団を対象とした関わりも多く、研修の企画等もを行っています。

保健師は、看護師とは働く場所は異なりますが、対象である住民や患者さんを支援するという点は共通しています。健康問題を抱える方の情報を把握し、アセスメントし、解決方法を検討する展開方法や医療の知識は、病院等の関係機関と連携する際や、住民と関わるときに役立っていることを実感しています。

学生時代に実習を通して、担当の患者さんについて深く考え、学んだ経験は、現場での支援にも繋がると思います。在校生のみなさんには、仲間とたくさんの経験をして学び、成長して欲しいです。

企業の保健師（三菱化学勤務）

平成19年度卒業（第3期生） 小林 由佳
（玉川学園高等部高等学校出身）



2008年3月に大学を卒業後、同年4月に三菱化学株式会社に入社し、本社人事部健康支援センターに配属されました。産業保健師は所属している会社の一員となり、組織全体と個人に働きかけます。そして、社員が「働き続けられる」ように健康管理を支援していきます。

最近では、健康管理の概念を幅広く捉えて、社員がイキイキと働けるように、健康度を上げるような活動を行っています。これは、生産性と健康は関連しており、イキイキと働く人はパフォーマンスが高いと考えているからです。

私は働くようになってから看護学の面白さを感じるが増えました。看護学は様々な分野を広く学べる学問であり、保健師は色々な活動の土台を支えることが出来ると体感しています。人対人の仕事は常に成長が求められるので、困難な時もありますが、とてもやりがいがあります。プライベートも含めて、全ての経験が自分の財産となり、成長するからこそ、幅広く活躍できる保健師になると考えているので、今後も様々なことにチャレンジしていこうと考えています。

産業保健師は就職先が少ないと言われていますが、私の学年からは、現在4名が企業に勤めています。興味のある方は、是非チャレンジしてみてくださいね。



へき地の助産師（西吾妻福祉病院勤務）

助産師 平成22年度卒業（第6期生） 高橋 綾佳
（栃木県立真岡女子高等学校出身）



自治医科大学看護学部を卒業し4年目になります。私は昨年7月から群馬県の西吾妻福祉病院で派遣スタッフとして勤めています。派遣の話は3年目の初めにあり、この頃になると『どのような助産師になりたいのか』『何を目指していけばいいのか』と考えるようになり、この派遣がその思いの鍵になればと思い決めました。僻地ではスタッフ不足が大きな問題としてあります。しかしこの環境だからこそ、妊娠期から退院後のフォローまでという長い期間関わることができ患者との関係性を築け、スタッフは必ずどこかで患者と関わるため情報共有しやすいという特徴があります。また、助産師主体であるため自身の判断が影響することで責任が重い部分もありますが、自身で考え取り組んでいけることにやりがいを感じています。

僻地医療では限られたスタッフで関わるからこそ知ることが出来た想いや自身で考え取り組んでいける環境は成長につながると感じます。近い存在の助産師であったことで知り得たことは、私の今までの看護を見直せる経験となりました。僻地ということで責任の重さに不安もあるかと思いますが、自身で成長させる機会であり後輩にもチャレンジしてもらえたらと思います。

看護学部同窓会より

自治医科大学看護学部同窓会のこれから

同窓会長 平成20年度卒業（第4期生） 渡邊 瑠美
（栃木県立宇都宮女子高等学校出身）



看護学部同窓会は今年で設立9周年目を迎えました。これまでに、ほぼ全員の卒業生が加入しており、同窓会活動は年々活発になっています。

昨年度も在校生に対し、看護学部3年生を対象にキャリア支援会を開催しました。同窓会会員である卒業生の先輩方から後輩である在校生に対し、自分の職業を紹介したり、在学中の悩みや考え方、進路の決め方、勉強の仕方等を詳しく説明する機会となりました。

また卒業生に対しても、同窓会主催看護フォーラムでキャリアをテーマに、卒業生で大学院に進学をした塚本さん（2期生）に講演をしていただきました。卒業後数年間、看護師として勤務した後に、CNSを目指し大学院に進学した経緯と大学院生活について講演していただき、卒業生一同自分の今後の進路を見つめ直すきっかけになりました。

来年、看護学部同窓会は創立10周年目を迎え、再来年には10周年の記念イベントを開催しようと考えています。今後も皆さんが卒業後も母校である自治医科大学を愛おしく感じる機会を、同窓会として提供し続けようと思います。今後も同窓会の活動にご協力いただければ幸いです。



いま 看護学部の現在

高校生活と大学での学び方の違い

1年 堀江 雅展（栃木県立石橋高等学校出身）



満開の桜に迎えられ、自治医科大学看護学部に入學してから早くも1か月が過ぎました。初めは少数派の男子学生として肩身の狭い思いをしていましたが、今では女子学生とも打ち解け合い忙しくも充実した大学生活を送っています。

高校とは違い一回の授業が90分間となっており、毎回非常に濃密な講義が展開されています。特に『看護学概論』や『看護技術論Ⅰ』では、看護学についての理解を深め、『看護技術演習Ⅰ』では看護師に求められる技術はもちろん責任感やコミュニケーション能力を養っています。また講義の中でグループワークを行い、意見交換をすることで看護における広い視野の獲得も目指しています。

このように、大学では高校までの学習方法だけでは学習量が圧倒的に足りません。予習復習に加え知識を技術に生かすためのイメージトレーニングや自分の意見を確かな根拠のあるものにすることが重要だと思います。

これから先4年間の大学生活では上記のことを心がけ、また遊ぶときは思い切り遊び、メリハリのあつ時間を過ごしていきたいと思っています。

大学での家庭学習

2年 伊藤 祐太（栃木県立栃木高等学校出身）



期待に胸を躍らせつつ、新生活への不安も感じながらの入学式から早くも一年が過ぎました。二年生となり、一回り成長した今では看護学部生の一員としての責任と自覚を持つに至ったと思います。

昨年一年間を振り返ってみると、様々な困難や壁がありました。特に単純な暗記だけでは太刀打ち出来ない課題や試験の数々には頭を悩まされました。そこで家庭学習での大切さに改めて気づくことになったのです。

週に一回しかない講義で全てを身に着けることは不可能でしょう。学習を確かなものにするには家庭での事前・事後学習が必要不可欠なのです。幸いなことに自治医科大学には大きな図書館があり、参考になる蔵書が豊富にそろっています。私も困ったときは図書館に足を運び必要な情報を調べたり、あるいは貸し出しをしてもらい教科書と合わせて自宅で利用するなどして、講義以外の学習で大いに役立てることができました。

より一層の知識や技術の習得のためにも講義を聴くだけの受け身の学習だけではなく、家庭での自発的な学習にも重点を置き、更なる飛躍を目指したいと思っています。

定期試験対策

2年 赤羽 郁美（栃木県立宇都宮中央女子高等学校出身）



入学して一年が過ぎました。昨年度は大学の定期試験を初めて経験し、その範囲の広さにとっても驚きました。今もどのように勉強をすればよいのか悩んでいるところですが、一年生の時に行ってきた定期試験対策についてお話しします。

私の定期試験対策は、こまめに復習することです。私は定期試験の前にまとめて復習しようとする、どこから勉強すればよいかわからなくなってしまい、焦って何も手につかなくなってしまいます。そのため、できる限り普段から復習しよう心がけています。その際は、講義で理解できなかった部分を重点的に行います。また、私は電車やバスを使って通学しているので、試験の前は通学中のすきま時間を利用して勉強しています。講義の内容を思い出しながら、講義資料を読み直します。短い時間ですが、その分集中して取り組むことができ、私にとって有意義な時間です。

現在学んでいることは、これからもずっと私を支えてくれるものだと思います。定期試験を含め、講義等の学習内容をしっかりと身につけられるよう努力していきたいと思っています。

総合実習・看護総合セミナーで得た学び

平成25年度卒業（第9期生） 渡辺 美佳
（宇都宮短期大学附属高等学校出身）



総合実習では、地域看護学領域において産業保健師の従業員に対する働きかけを学びました。総合セミナーでは『新入社員の生活習慣の改善に影響する要因』というテーマで研究しました。総合実習、看護総合セミナーを通して、成人期にあり、働いている人の特徴として、自分の健康に対してあまり関心がないことがわかりました。そういった対象に予防行動を促すことの難しさを感じ、従業員が心身ともに健康な状態を維持しながら働き続けることができるように必要な支援を考察することができました。産業保健の現場では健康障害を抱えていない人を対象とするため、働きかけることの難しさもありますが、継続して従業員に関わっていくことができるため、病気の早期発見、予防が可能であり、保健活動の成果を得やすいところに産業保健師のやりがいがあると考えました。わたしはこの実習を通して、産業保健師になりたいという思いが強くなり、産業保健師として就職することを決意しました。この気持ちを忘れず、日々成長できるよう頑張ります。

健康管理

3年 飯島 礼佳（栃木県立鹿沼高等学校出身）



今まで、看護についての専門的な知識を講義や演習で学習してきました。そして、3年生になり、いよいよ臨床の場で実際に行い、さらに学びを深め、主体的に考えていくことが求められるようになりました。それをしっかりと行えるようにするためにも、自分自身の体調を管理していくことが大切だと思います。

私自身、健康を維持するために行っていることは、特にありません。しかし、私が健康を管理するうえで大切だと考えるのは、食事と睡眠です。

食事は、栄養バランスのとれたものを食べようと心掛けていますが、やはり美味しく、楽しく食べるということが健康につながるのではないかと思います。

勉強やレポートなどにより寝ることが遅くなってしまいうということもあります。しかし、日中の空いている時間を活用したり、計画的に勉強を進めたりしていくことで、睡眠をしっかりとるようにしています。

また、サークルで体を動かすことも、健康につながっていると思います。

これからも健康管理をしっかり行い、学生生活を楽しんでいきたいです。

アパートでの生活

4年 南山 みなみ（群馬県立太田東高等学校出身）



私がアパートでの一人暮らしを始めて3年が経ちました。自治医大には看護学生寮があり、通いで学校に来ている学生以外はほとんど寮で生活をしています。そこで、みなさんがあまり知らないアパートでの生活について紹介したいと思います。

寮とアパートで違うことといえば、アパートの方が一人の時間が多いということです。寮では友達が近くにいるということで、友達の部屋を行き来することも多くなってくると思います。しかしアパートでは、友達が近くに住んでいないため一人の時間がとても多いです。そのため、一人で集中して勉強などにも取り組みます。また、寮ではお風呂の時間が決まっていますが、アパートでは好きな時間に入ることができます。

寮は寮で、友達が近くにいるため困ったことがあったりすればすぐ相談できたり、部屋を行き来して友達と楽しく過ごしたりと、良いところもたくさんあります。しかし、一人で生活していくということにはアパートも寮もあまり変わりません。良いところも悪いところもあります。



本看護学部の広報活動とオープンキャンパス

前広報委員会委員長 永井 優子



現在、大学3校に1校は看護系学科が設置されており、広報活動は学生募集の重要戦略となっています。私は平成24年度から2年間広報委員長を務めました。アドミッションポリシーにあう優秀な学生の募集は重要な役割で、パンフレット、進学情報サイト、広報紙「ビタミンN」、看護学部ムービー等の媒体で看護学部の教育研究の現状を周知しています。主に高校生にわかりやすく、魅力的に伝えるために、学生の皆様には原稿の執筆、撮影などで多大なるご協力をいただいております、心から感謝しております。

特にオープンキャンパスは、毎年5月第4土曜日の午後、7月と8月の各1日の計3回開催し、学生の力をフル活用して参加者と交流できる多彩なプログラムを準備してニーズに応じて楽しめるように改善してきました。広報委員等の教職員に加え、全学年にわたり延べ70名以上の有償ボランティア学生（時給820円）によって支えられ、増加する保護者に対しても大きな成果を上げています（表参照）。新入生の9割以上がオープンキャンパスに参加しており、その体験が受験へ結びついたことがアンケート調査の結果でも明らかです。

ボランティア学生は、スクールカラー（青）のTシャツの着用とスタッフとしてふさわしい整容と態度が求められ、1時間程度の事前説明を受けたうえで、役割を担当しています。炎天下でのマイクロバスによる送迎誘導、看護学部校舎内の演習室で説明、看護学部校舎や男女別学生寮のツアーガイド、大学生活の紹介や受験勉強に関する交流、自分の体験に基づいた相談などの役割を担当します。短い休憩時間にもかかわらず、元気で親切で温かい参加者への「おもてなし」は、参加者のアンケートでも大変好評です。終了後には教職員とともに改善すべき課題や効果的な方法の提案など、評価も行います。広報委員会への協力は、就職時の履歴書に記載でき、活動を主体的に展開した経験は大いに評価されるでしょう。

平成26年度からは中村委員長に交代し、さらに広報活動が充実しますので、活躍する学生たちへエールをお願いします。

過去3年間の看護学部オープンキャンパスの実績

年度		平成25				平成24	平成23
回		第1回	第2回	第3回	合計		
参加者数	生徒	102	304	217	623	563	576
	保護者	93	286	175	554	399	306
	総数	195	590	392	1,177	863	882

オープンキャンパスのボランティアに参加して

4年 木田 ありさ（福島県立磐城桜が丘高等学校出身）



わたしたちは自治医大看護学部のオープンキャンパスに来てくださった、主に高校生やその保護者さまに対し看護学部とはどんな勉強を行うところなのか、日ごろわたしたちが実際に演習を行っている部屋を案内したり、ゲーム感覚で看護学に触れられるようなお楽しみ企画を通したりしながら説明をし、少しでも多くの方に看護学に興味を持ってもらえるように努力しています。やはり在学生から直接大学についての話を聞ける機会というのは少ないので、定期試験についての勉強への不安や、寮生活などの人間関係、実習や課題は大変なのか、部活動は盛んなのか、奨学金はもらえるのか、など様々な質問が飛び交いました。ひとつひとつ丁寧にわたしの三年間の経験から得た情報や感想をお答えすると、見学者たちの緊張した表情がほぐれ、笑いが起きる場面もあり、自治医大看護学部についてより確かなイメージを持っていただけたと思います。ボランティアを通して、最初の不安ばかりだった自分を思い出し、あらためて自分自身を振り返ることができました。新入生に負けない新鮮な気持ちでこれからも自分自身の学びを深めていきたいと思っています。

看護学部学生自治会の発展を祈って

学生委員長 大塚 公一郎



本学生委員会は、学生自治会の支援もその目的のひとつとしています。近年、わが国の大学生一般に、自治会活動への参加が消極的になっているとの話を聞きますが、このことは憂慮すべきことに思われます。学生自治会は、大学生が、義務や責任をとらないつつも、学生としての自由や権利を集団として実現するための組織であったからです。

このような活動に参加することは、理想であるかもしれませんが、否定してはならない、私たちのいまの社会を支える原理を実践的に学ぶことにつながるといっても過言ではありません。本看護学部の学生自治会は、学部ができてまもなく誕生したものの、ここ数年、活動が停滞し、ごく少数の役員に限られた活動をこなすだけという状態が続いていました。ところが、昨年度、高い志をもった一群の若者たちが、自治会役員に名乗りをあげ、自治会の改革、復興の機運が高まってきました。本委員会は、時代の風潮に流されない気概をもったこれらの若者たちに、大きなエールを送るとともに、後進が続くことを願っています。

その際に、学生の自主的な運営を尊重することが大切だと思われます。

自治会長から

3年 新妻 駿（栃木県立真岡高等学校出身）



看護学部学生自治会は、学生生活の向上を目的に全看護学部生で構成される組織であり、有志で集まった役員を中心に活動をしています。

昨年度は、現2,3年生から役員を募集し、17名で活動を始めました。活動内容は、要望箱の設置とコピー機の管理、意識調査と要望の実現、各自治会と協力して新入生歓迎会の実施等を行いました。今年度は、新しく入った1年生役員とともに学生生活の充実を目標に設備の導入や各学年や先生方との交流の機会を増やしていきたいと考えています。

私が会長をやらせて頂くことになってから1年間、役員や先生方、看護学務課、看護総務課の皆様にご協力いただき、任期を終えることができました。自治会活動をするための基盤づくりを進め、少しでも学生の皆様に活動を知っていただけるよう努力してきました。今年度は新しい会長のもと、今まで以上に学生生活に寄り添った活動を行い、自治医科大学看護学部で充実した学びを得られるように役員全員で努力していきます。今年度もよろしくお願ひします。

寮自治会長から

3年 沼尾 歩（栃木県立宇都宮中央女子高等学校出身）



看護学生寮自治会とは、寮生が安全で快適な生活を送るために細やかなサポートをしている組織です。普段は寮内の備品や共有スペースの管理、新入寮生のお部屋割りと案内、寮自治会集会などを行っています。特に集会では、寮内で起こっている問題や、より良い環境を整えるためにどのような活動をするかを考えて話し合いをしています。私たち役員自身も寮で生活を営む学生であるため、同じ寮生としての立場からの意見や要望を大切にしよう心がけています。そして、寮内で解決できることは自治会で働きかけ、自治会単位で難しいことに関しては学校側の協力を得ながら問題の解決や環境の整備に努めています。その他、震災に備えての寮防災訓練や学生委員会の先生方との会議、寮生の意識調査のためのアンケートなども行っています。

私自身1年間寮長を務めさせていただき、寮自治会は寮生の皆さんはもちろん、管理人の方々、学務課の方々、先生方などたくさんの方々を支えられてこれまで活動できていたのだと感じています。この場をお借りして、お世話になった皆様に心より感謝申し上げます。今後も、寮自治会をよろしくお願ひいたします。

課外活動の紹介

課外活動には部活動の【運動部】、【文化部】、サークル活動の【自治会サークル】、【地域医療サークル】などがあり、活発に活動しています。

今回は【運動部】の中から「ダンス部」と【文化部】の中から「美術部」を紹介します。

ダンス部

2年 吉田 朋実（星野高等学校出身）



私たちダンス部は、多くの部員が所属しており、とても規模の大きい部活動となっております。私は初心者で入部しましたが、先輩たちに優しく教えていただけるので、とても入部しやすかったです。GIRLS、HIPHOP、LOCK、WAACK、BREAK、POP、JASSなどのジャンルがあり、それぞれ自分が興味のあるジャンルごとに練習していますが、ジャンルの中だけでなく部員全員と仲を深めることができるアットホームな雰囲気の部活動です。

昨年の薬師祭では、ジャンルGIRLSでダンスを踊りました。夏休み前くらいから発表に向けて練習していたので、いざ本番が終わると少し物寂しい気もしましたが、踊ることは楽しくて達成感を得ることができ、仲間との絆も強まったと感じています。また、他大学と合同で開催するUDMというイベントもあり、さまざまなチームのダンスを見ることができ、とても貴重な経験となりました。

実際自分が踊ったり、他のチームのダンスを見たりして、まだまだ自分は未熟だなと実感します。今年は2年生という立場になり後輩も入ってきたので、今後も日々努力し多くのことを学び上達しつつ、後輩にも何か伝えていけるような先輩になりたいです。そして、楽しく活動しいろいろな経験をしていきたいと思います。



ダンス部の仲間と

美術部

3年 小林 愛（栃木県立真岡女子高等学校出身）



私たち美術部は、看護学部5名、医学部4名の計9名で活動しています。活動は週一回で、水彩画や油絵、デッサンや彫刻、フィギュアの製作など活動内容は幅広く、各々が技術の向上や趣味の一環として活動に取り組んでいます。目的はさまざまですが、一つの空間でみんな楽しく活動しています。また、部員同士で完成した作品を見て、意見を交換し合うことも楽しみの一つとなっています。

美術部では毎月、広報誌に絵画を掲載しています。部員で順番に広報誌に掲載する絵画を製作しているのですが、自分たちの作品を公開する機会が少ない私たちにとって、広報誌への掲載はやりがいへと繋がっています。また、毎年10月に行われる自治医科大学の学園祭「薬師祭」では、部室で展示会を行っています。昨年は学生だけでなく一般の方々にも多く足を運んでいただきました。その際に「すごいね」、「上手だね」との声をいただき、勉強や実習とはまた違う達成感や喜びを得ることができました。また、普段一人で一つの作品を完成させるのと違い、みんなで展示会という一つの作品を作り上げることで達成感や喜びを共有でき、部全体が一つになります。

美術部は運動部と違い、大会のような大きな目標はありませんが、部員それぞれが自分を表現でき、生き生きと活動できるような部活であり続けたいと思います。また、あまり目立たない部活ですが、これからさらに活動の場を増やしていけたら良いと思っています。



小林 愛さん 作

薬師祭について

薬師祭ってどんなもの？



3年 小谷 聖香（群馬県立桐生女子高等学校出身）

薬師祭とは、医学部生・看護学部生が主体となって作っていく年に1回の大きなイベントになります。内容としては、一般的に模擬店、子どもたちと触れ合える場、ステージ企画、運動会、球技大会、大物音楽ライブ等があります。また、医科大ならではの、看護体験だったり、医師体験だったり、救急車が来たりというような医療に携わる企画も多数あります。

去年の薬師祭のテーマは「彩～paint your color～」でした。テーマ設定の理由としては、薬師祭というのは、さまざまな人の協力があって成り立つものです。その協力してくださる方々にもたくさん色があるんです。その色が合わさって第42回薬師祭の色を作っていったらいいなという思いを込めてこのテーマに決定しました。

また、自治医科大学の学祭の大きな特徴として、病院にいる患者さんにも楽しんでもらおうという企画もあります。2日目の夜、記念棟の13階から患者さんと共に花火を見ます。上から見る花火も一段ときれいです。そして何より、患者さんがとても喜んでくれるので、こちらもすごく嬉しくなります。とっても心がほっこりしますね。

今回は、ほんの一部だけの紹介になってしまいましたが、薬師祭にはまだまだたくさん楽しめる企画がたくさんあります。みなさん、是非足を運んでみてください！

第43回薬師祭のご案内

自治医科大学学園祭「第43回薬師祭」が10月10日（金）～10月12日（日）の3日間、自治医科大学キャンパスにて開催されます。今年のテーマは「一蓮托笑～寝ても覚めてもお祭り騒ぎ～」です。楽しいことも大変なことも皆で笑って共に乗り越えようという思いが込められています。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

看護学部学生寮及び駐車場利用状況について

【学生寮】

看護学部学生寮は大学敷地内に女子寮（268室）と男子寮（12室）があります。また、女子寮内には、通学生が臨時に宿泊できる臨時宿泊室が3室（24人収容）用意されており、交通機関の遅延や運転見合わせ、看護実習で帰りが遅くなった時に利用できます。

女子学生寮は鉄筋コンクリート7階建てで1階に共用空間として、集会室、学習室、浴室（2室）があり、各階にランドリー室（無料）があります。

管理人が24時間常駐しているため安心です。（寮費は月2万円、臨時宿泊室は1泊200円）

平成25年度利用状況

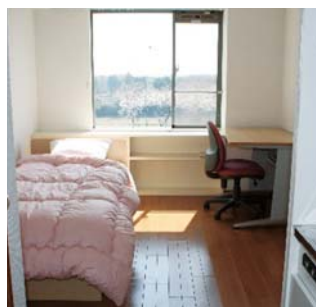
女子学生410名のうち215名、男子学生19名のうち7名が利用しています。

【駐車場利用状況】

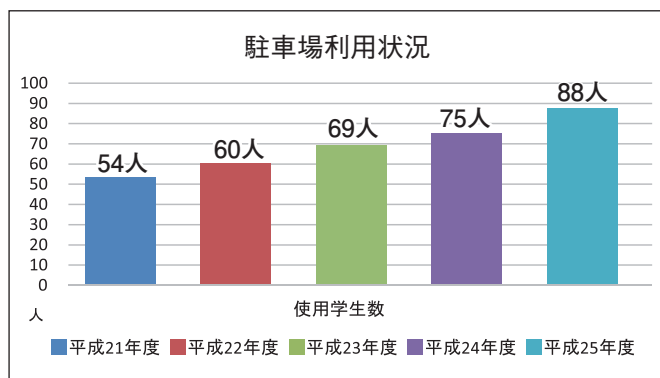
看護学部生の駐車場は大学敷地内に124台分確保されており、寮生及び通学生が利用しています。年々、車を保有する学生が多くなる傾向にあります。



（女子学生寮）



（女子学生寮室内）



平成25年度 学校法人自治医科大学決算

5月30日(金)に開催された理事会及び評議員会において、平成25年度学校法人自治医科大学決算が承認されました。決算の概要は次のとおりです。

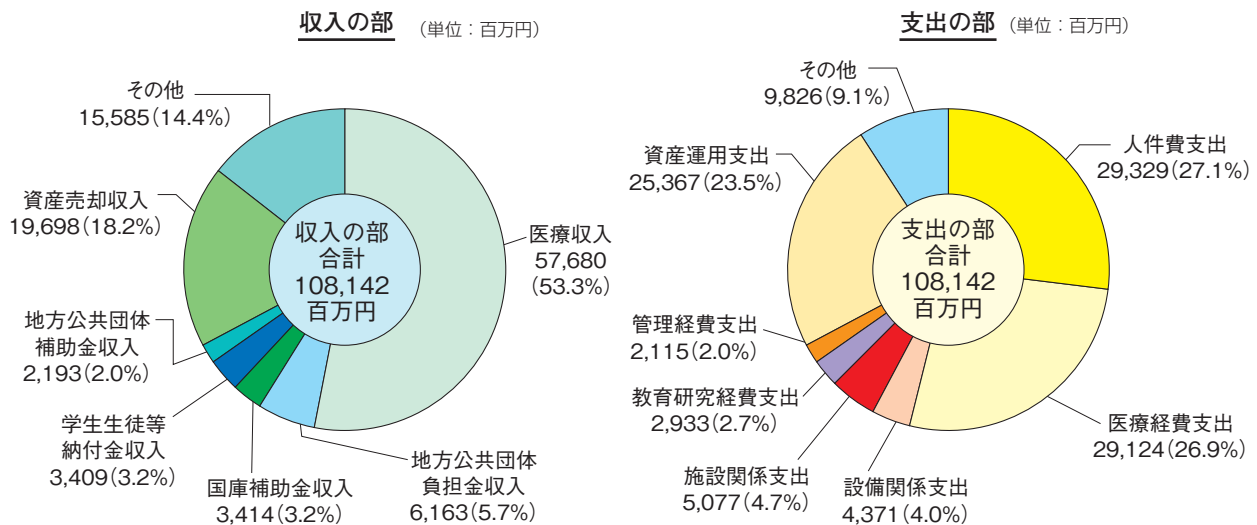
※財務状況等の詳細は、大学ホームページ http://www.jichi.ac.jp/gaiyo/public_info/index.html の「情報公開」でご覧になれます。

1. 平成25年度学校法人自治医科大学決算の概要について

・資金収支計算書(図1)

1年間に実際に収入又は支出した金額(現金ベース)を主として科目別に分類して表した決算書です。

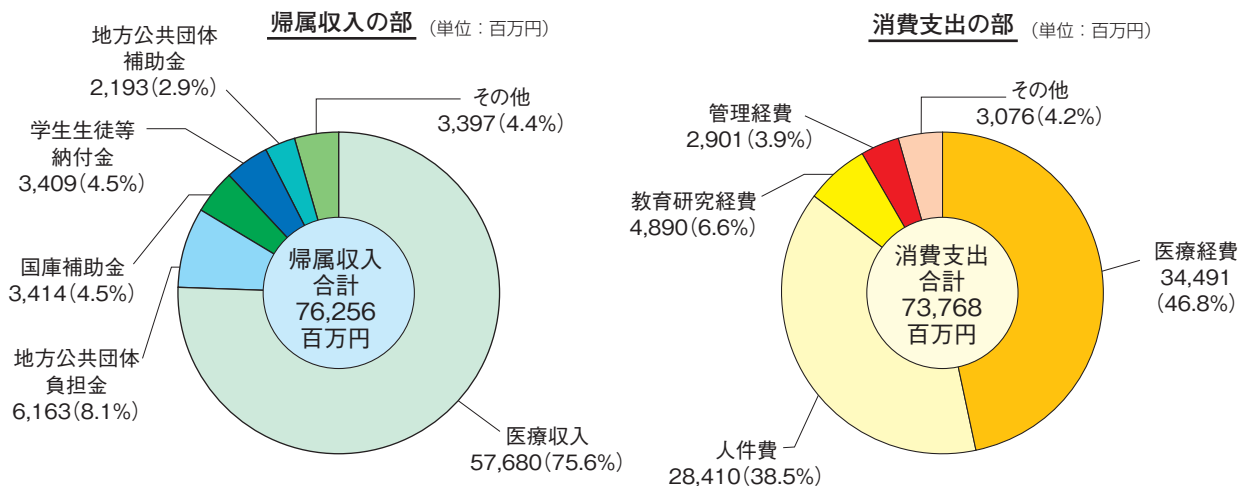
図1 平成25年度 決算 資金収支計算



・消費収支計算書(図2)

企業会計で用いられている損益計算書と類似しており、学校法人の経営状況を表した決算書です。

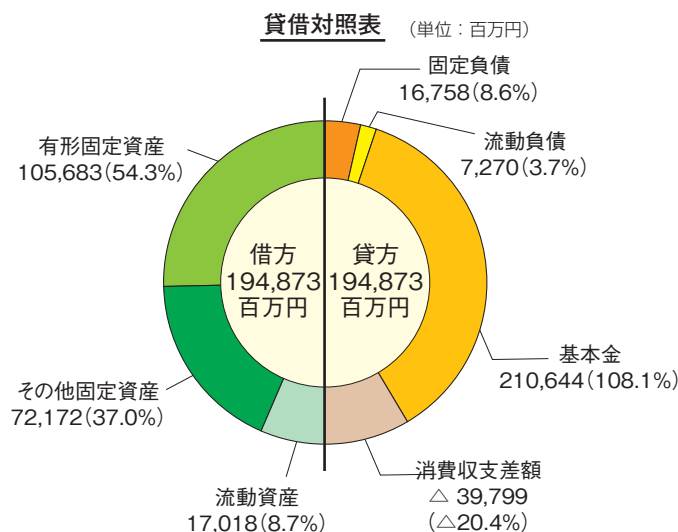
図2 平成25年度 決算 消費収支計算



・貸借対照表（図3）

25年度末時点での固定資産や現預金、負債等の保有状況を表した財務書類です。

図3 平成25年度 決算 貸借対照表



2. 平成25年度事業の概要について (大学事業報告書より、看護学部関係抜粋)

看護学部は、4年間の教育課程を通じて、豊かな人間性を涵養することに力を注ぎ、高い資質と倫理観を有し高度医療と地域の看護に貢献できる看護職者を育成するため、次の取組を実施しました。

① 学生教育に関すること

- ・ 国家試験を受験する4年生を対象に国家試験対策ガイダンスを4月・6月に、3年生を対象に11月に開催しました。併せて、4年生を対象に国家試験対策ゼミを9月・12月・1月に開講しました。
- ・ 平成24年度に改編した教育課程の2年次新規科目である2つの成人看護実習について、看護過程の展開などの学習内容の充実を図りました。また、平成26年度から3年次の新規科目となる成人・老年看護実習について、附属病院の協力を得て、実習病棟の調整を行いました。
- ・ 看護実践能力の卒業時到達度の検討に関し、総合実習、看護総合セミナーの学生自己評価・教員評価の結果から、概ね達成したと評価しました。
- ・ 2年生、3年生から参加希望者を募り選抜の上、8名の学生を王立ブータン大学に派遣し短期交流研修を実施しました。

② 学生の受入れ・支援に関すること

- ・ 外部カウンセラーによる学生相談体制の充実・強化に関し、「相談ルーム便り」を毎月発行し、大学ホームページを通して相談ルームのカウンセリング予約ができるようにし、各学年へのカウンセラーの自己紹介等の機会を設けて存在の周知を図り、利用しやすさを高めました。
- ・ 附属病院、同窓会の協力を得て、3年生を対象としたキャリアガイダンス「キャリアを考える会」を2月に実施しました。
- ・ 広報活動の効果検証に関し、卒業式に参加する保護者に対して、看護学部の広報活動に関するアンケートを実施しました。

③ 研究に関すること

- ・ 教員と臨地の看護職との研究課題13件に対して共同研究費予算を配分し、共同研究の推進を図りました。
- ・ 看護学部研究推進委員会が中心となって、コンサルテーションシートの活用により附属病院看護職の研究を支援する体制を整え、18件の研究を支援しました。

編集後記

ビタミンN第11号では、未来を見据えた本看護学部における教育の取り組み、学生さんの学習状況や課外活動、自治会の活動を中心にご報告しました。忌憚のないご意見をお寄せください。広報委員長 中村美鈴

ビタミンN 第11号

発行日 平成26年7月15日

発行 自治医科大学看護学部

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-159

T E L 0285-58-7409 (看護総務課)

E-mail vitaminen@jichi.ac.jp